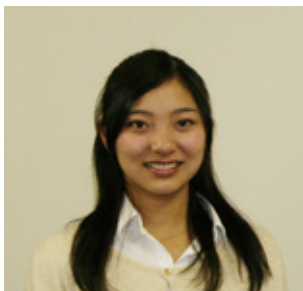


東海大学 医学部

実際の病院研修や福祉施設などで実習を行ない、医療スタッフの一員として患者さんに接する経験を通して学ぶ先進的なカリキュラムを導入。問題解決能力の高い、人間性豊かな「良医」の育成を目指します。



■大学生
岩見穂衣さん



■先生
坂部貢先生



■卒業生
今井洸先生

CONTENTS

- プロフィール
- 大学生活について
- 就職活動、仕事について
- 5年後に向けて
- 高校生へのアドバイス
- 大学のアピールポイント

●プロフィール

みなさん、簡単に自己紹介をお願いします。



■先生

私の教育の専門分野は、解剖学。人体の基本構造について教えています。研究は、環境生命科学と言われる分野です。ひと言で言えば、環境中の化学物質と健康影響に関することの研究。実は、私たちの生活に直接関わってくる問題でもありますから、社会の興味も大きい分野だと言えるかもしれません。たとえばシックハウス症候群の研究や、遊具に含まれる化学物質の幼児への影響、電子タバコの発がん性など、私たちの発表したことは、マスコミが取り上げて社会問題になることも多いです。厚生労働省や環境省などの政策行政に関係するような研究が多いのも、特徴のひとつかもしれません。

■大学生

医学部医学科の2年です。小児科を目指していたのですが、1年の夏の実習で手術の術前・術中の管理について学んだことがきっかけで、いまは麻酔科に興味を持っています。

■先生

お、いいねえ。麻酔科は人材不足だから、ぜひそのまま目指して欲しい（笑）。

■卒業生

私は、後期研修医として東海大学医学部附属病院の整形外科医をしています。整形外科分野の救急の当番もしていて、毎日のように、その麻酔科医にお世話になっています（笑）。同時に博士課程の3年生として論文を書いたり、研究をしたりもしています。

■先生

うわ、それは大変だ。東海大学の救急はドクターヘリもあるし、地域密着型の方針をとっているから、それだけでもかなり忙しいはずですよ。その上で大学院の研究もしているなんて。

■卒業生

はい、忙しいですよ（笑）。でも、だからこそいい経験ができていますと思います。やりがいも感じています。

■先生

うちの高度救命救急センターは、高度治療だけを受けているわけではないから救急の受入数はとても多い。救急車の乗り入れ回数と救命率が日本一と報道されたこともあるほどです。

東海大学医学部の特色を教えてください。

■先生

総合大学にある医学部だということじゃないでしょうか。これほどの多様性の中で勉強できる大学はあまりない。オリンピック選手もいたりしますからね。

■卒業生

確かに。価値観や考え方の違う学生との出会いは視野を広げてくれますし、その経験は社会に出てからも役立つと思います。

■大学生

私、先日の解剖実習で、まさにそんな経験をしました。健康科学部看護学科の学生と一緒に講義だったのですが、同じことをしていても、やはり考えることが違うんですね。私たちは、どうしても病気について考えてしまうのですが、彼女たちは健康について考えていました。病気を治すためには健康な状態を知ることが大切なわけで、むしろ原点はそこにあります。目からウロコが落ちたような気分でした。

■卒業生

専門的な知識を深めると、気づかないうちに視野が狭くなってしまっているようなことは、確かにあるかもしれない。

■大学生

そうなんです。忘れていたことを思い出させてくれるというか。

■先生

そこだね。多様性のなかで違う視点を知ることができる。視野が広がることで、本質に近づくことができる。それがいい。東海大学には「現代文明論」という科目があるのですが、いろんな専門の先生が交代で講義します。現代の文明を築いた基礎となる学問や考え方を、幅広い視野で知ることができる東海大学ならではのカリキュラムだと思います。岩見さんも、もう受けたんじゃない。



■大学生

はい、いろんな分野の先生の話が聞けておもしろいです。とくに「医学の歴史」の講義は印象に残っています。「歴史」がこんなにおもしろいとは思いませんでした。今の医療技術がどういう流れでできあがってきたのかがわかると、わかっていなかった最先端のこともわかるようになるんです。自分から学ぼうとは思っていなかった分野なので、この授業がなければ、そんな基本的なことにも気がつかなかった。

■卒業生

「現代文明論」は、全学部の全学生が履修しなければいけない講義です。最先端医療や専門分野の知識などに興味がいってしまいがちな私たちの視野を広げてくれる講義ですよ。

■大学生

アリストテレスの生命観なんて、とても興味深かったですし、医師としての道徳というか有り様を考えさせられました。

●大学生活について

なぜ医学部を目指したのですか？

■大学生

私の場合は、弟が肺炎で危篤状態になったことがあるのですが、そのとき、医師ってすごいなあと思ったことがきっかけです。

■卒業生

それで小児科医を目指していたわけですね。私は、高校時代はずっと野球をやっていたのですが、そこからスポーツ医療へと興味が広がっていきました。監督の弟さんが医師をしていたことも影響したかもしれません。先生は、どうなんですか？

■先生

私の家は代々医者でね。4～500年前から、ご先祖様はみんな医者なんですよ。ですから、自然と私も医者を目指していました。父親が外科医だったのですが、仕事ぶりを見ていて、カッコいいと思いましたし。でもね、医学部を目指す人というのは、基本的にはやはり生命に興味を持っているからだと思うんです。人が好きだったり、生き物が好きだったり、そういうことが基本になっているんじゃないかと思います。

■卒業生

それは同感です。

■大学生

私も、人体の仕組みとか、子どもの頃からとても興味がありました。

東海大学医学部のいいところってなんだと思いますか？

■卒業生

泥臭いところ（笑）。反面、あったかい。

■大学生

学生にも先生にも、温かい人間味は感じますね。勉強に限らずに、みんなでがんばろう、という雰囲気があります。

■卒業生

スポーツやサークル活動も活発ですし、仲間内での勉強会もよくやっていますよ。

■大学生

はい、友達同士で教え合ったりは、私もよくします。他人に教えることで自分の勉強にもなりますしね。

■卒業生

学生10人くらいのグループに一人ずつ先生がついてくれるんです。勉強のことだけでなく、いろいろ相談に乗ってくれるのは安心ですね。

■大学生

はい。私もよく相談しています。医学英語の先生なので、毎週必ず会えますし、話しやすいです。



■先生

いわゆるチューター制です。最近では、多くの大学で取り入れられていますが、東海大学医学部では早い段階から、ほかに先駆けて実施してきた実績があります。医学英語、基本診療学などいくつかの科目に、小グループでのチュートリアル制度を導入しているのですが、そのチューターが学生の生活指導なども行なうようにしているのです。他大学と比べてもしっかり機能していると思いますよ。

■大学生

もうひとつ、社会人を経験している学生がけっこう多いのですが、それもいいところだと思います。40代の人もありまして、豊富な社会経験の話を聞いたりするのはとても勉強になります。

■先生

確かに。社会人の編入学への窓口が大きいのも東海大学医学部の特徴かもしれませんね。先ほどの多様性の話にも通じますが、いろんな人がいるというのは、それだけで大きな学びになりますからね。

■卒業生

すぐ隣に付属病院があって、現場を見たり体験したりする機会が豊富にあるのもいいことではないでしょうか。同じ敷地内に、学生だけでなく、専門医や研修医がたくさんいるわけで、これもある意味多様性と言えますよね。

■先生

そうですね。先輩たちのカッコいい姿を見れば、医師になりたいというモチベーションも高まります。低学年から病院内や福祉施設などで実際に研修して、体験を通して学べるのは大きなことだと思います。

印象に残っている講義はありますか？

■大学生

最近では、産婦人科の和泉先生の「生命の誕生」をテーマにした講義です。受精してから胎児になっていくまでを映像で見せていただいたのですが、生命の不思議さを感じ、また、今、学んでいることと生命の関係がわかりました。なんで、こんなこと勉強しなければいけないの、と思っていたことが、その講義でつながったような感じでした。そういう意味では、実習も毎回、それまで学んでいたことを、実際に見たり体験したりすることで、ああこういうことかとつながることがあります。新しい発見があったりもしますし、もっと勉強しなければ、という気になります。

■先生

文字で学ぶのと、実際に見て学ぶのでは、やはり違いますからね。現場でないと覚えられないことは

たくさんあります。学生には大変かもしれませんが、臨床実習に力を入れているのはそこに大きな意義があると考えているからです。

■卒業生

今になっても、現場で毎日学んでいるように思います。あらためて思います。この仕事は、一生勉強しても足りないって。

●就職活動、仕事について

医学部の就職活動はどんなことをするのですか？

■卒業生

私たちにとっての就活は「マッチング」への参加ですね。

■先生

つぶしのきかない学部ですからね(笑)。基本的にみな医師を目指しますから、ほぼ全員が「マッチング」に参加します。マッチングというのは、大学を卒業し、医師免許を取った人が対象なのですが、研修希望者と研修先となる病院をマッチングさせるシステムです。

■卒業生

一般的な就活と一緒に、先輩に聞いたりネットで検索したり、まずはいろいろな病院を調べて、行きたいところを決めます。いいなと思った病院には見学に行きます。複数の病院に願書を出し、試験を受けるのも就活と同じですね。違うのは、その後「マッチング」が行なわれること。行きたい順に、受けた病院の順位登録をし、病院側の希望も踏まえて、マッチング結果が出るという段取りです。

■先生

やはり人気の高い病院は倍率が高かったりしますから、その辺りを考えながら志望先を決めるのは、一般的な就活とそう変わらないですね。

医師になる以外にどんな道があるのでしょうか？

■先生

何度も言いますが、つぶしのきかない学部ですからね(笑)。まったく違う道に進む人も、中にはいますが、基本的にはそう多くありません。医系のお役人になるか、検視官などの道へ進むか、そのくらいじゃないでしょうか。

■卒業生

初めから、ほとんどの方が医師になりたいと思って入ってくるわけですからね。

● 5年後に向けて

将来の夢はありますか？

■大学生

私は、やはり医師になること。先ほど言ったように、今のところは麻酔医。

■卒業生

整形外科医は意義のある仕事だと思いますし、今の環境にやりがいを感じていますので、この道を進みたいと思います。

■先生

私は皆さんと違って先が短いですから（笑）、夢なんておこがましいのですが、私が基礎医学を教えた学生たちが成長していくのを見るのはうれしい。教え子たちが全員、立派な医者になることが、いわば私の夢です。親が子供の成長を願い、喜ぶ気持ちと一緒にですね。岩見さんにも、ぜひ立派な麻酔医になって欲しい（笑）。



■大学生

坂部先生には、ずいぶんお世話になっていますので、期待に答えられるよう、がんばります！

● 高校生へのアドバイス

もし高校生に戻れるとしたら、何をしたいですか？

■卒業生

ぼくは高校時代の3年間、野球ばかりしていたので、結局浪人してしまったのですが後悔はまったくしていません。いま高校生に戻っても、また野球をやりたいと思います。野球を通して学んだことは、一生の財産だと思いますし、野球をやっていたからこそ今があるんだとも思っています。

■大学生

私も、部活をやりたいですね。バトン部に所属し、チアをやっていたのですが、高2の冬には全国大会にも出場し、思い出がたくさんできました。

■先生

高校時代に部活に精を出すのはいいことだと思います。医師には体力が必要ですからね。それに、最近チーム医療の重要性が増していますし、医療の現場ではチームワークが大切です。そう言う意味でも、部活の経験は役に立つ。勉強だけをしていても、いい医師にはなれませんから。

合格するためにどんな勉強をしましたか？

■大学生

高校の行き帰りの電車の中とか、授業の始まる前の10分間とか、ちょっとした空き時間をうまく利用して受験勉強していました。1日の時間は限られていますから、有効に使う工夫をしないと、勉強時間はなかなかつくれません。短い時間でも、うまく使うとちゃんと勉強できます。

■卒業生

ばくの場合は、正直に言うとなんと勉強したのは卒業してから。浪人のときは勉強に集中しましたが、高校時代は本当に野球しかしていませんでした。浪人時代は、一人で黙々とやりました。野球で培った集中力が生きたのかもしれませんが。結局は、集中してやったことの積み重ねが、結果になるのだと思います。



■先生

結局、医者になりたいとか、生命を学びたいとか、そういう目的意識があることが大切なのではないでしょうか。それが勉強に集中させる原動力になりますし、入学してから高いモチベーションを維持できます。実際、トップクラスの成績で入学して来た学生でも続かない学生もいます。モチベーションがないからですね。将来、自分はどうなりたいのか、何をしたいのか、どんなことに興味があるのか、高校時代に一度考えてみるといい。しっかりと目的意識を持って大学選びをして欲しいと思います。高校生には、なかなか難しいことなのかもしれませんが。

●大学のアピールポイント

最後に東海大学の素晴らしいところをあらためてアピールしてください。

■先生

東海大学医学部付属病院は、雑誌などでよく行なわれる病院ランキングでは、常にトップクラスです。これは地域医療のあるべき姿を考え、しっかり実践しているからこそです。組織やチームワークがしっかりしていて、理念をもった病院でなければ、なかなかトップにはなれません。そういう病院で教育

を受けられるということ、これは大きな魅力だと思います。

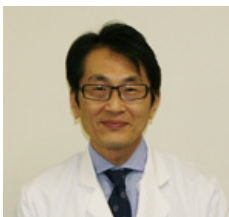
■大学生

病院実習もけっこうあるのですが、いろいろ勉強になります。病院の先生についたときには、チームで協力してやっているんだということがよくわかりました。

■先生

組織のしっかりした、いろいろな意味で安心できる大学だということもいい。事務部門が充実しているのは、研究している身としてはありがたい。よけいなこと考えずに研究に没頭できますからね。学生にとってもそれは同じだと思います。単科大学ではなく総合大学だということ、歴史のある大学だということ、そんなことが一朝一夕にはできない「安心」を生み出しているのだと思います。

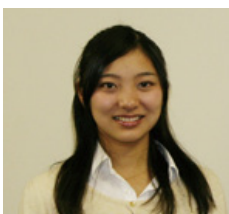
●インタビューに答えてくれた方々



■先生
坂部貢先生



■卒業生
今井洸先生



■大学生
岩見穂衣さん